

## 古墳時代の地下式横穴墓

東二原地下式横穴墓群（小林市真方）では、16基の地下式横穴墓と円墳が1基確認されています。



東二原地下式横穴墓群出土遺物



赤く塗られた空間に葬られた人々。棚の上には副葬品が供えられた。

## 郷土の城郭

戦国時代に日向の大部分を支配した伊東氏が、領内各所に「伊東四十八城」と後に呼称される城を配置しました。小林には、「小林城」「野尻城」「紙屋城」「戸崎城」「須木城」「奈佐木城」の5つの城を配置して島津氏と対峙しました。このうち「紙屋城」と「奈佐木城」は発掘調査が行われました。



戦国時代「伊東四十八城」の一つに数えられる紙屋城の空堀。



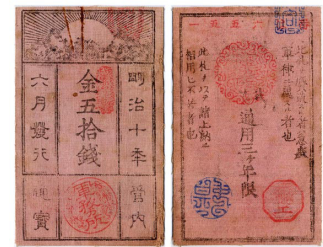
奈佐木城跡の発掘調査で出土した戦国時代の遺物。

## 西南戦争の痕跡

国内最大の内戦と称される西南戦争は、明治10（1877）年2月に熊本城包圍戦で火蓋を切り、3月の田原坂の戦いで形勢が決すると、7月に小林周辺での戦いが激化しました。平成12年に発掘調査が行われた勝負台場遺跡では、薩軍側が設置した台場（土塁）の痕跡が明らかになっています。



薩軍が野尻町勝負地区周辺に築いた土塁（勝負台場遺跡）。



軍資金が枯渇した薩軍が宮崎県佐土原で製造した軍票（「西郷札」）。

## 3階

3階の窓から外を見ると、橋の向こう側に「伊東四十八城」の一つに数えられた戸崎城を望むことができます。



# 野尻町歴史民俗資料館



## 小林市教育委員会

### 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 休館日 年中無休（くん蒸などのため臨時休館することがあります。）

### アクセスマップ



# 1 階

1階には、明治・大正・昭和と比較的近い過去に実際に使用されていた道具を展示しているほか郷土芸能について紹介しています。また、大正二年に野尻を襲った大火災の様子を描いた絵図なども展示しています。

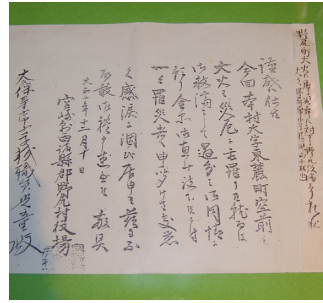
## 郷土芸能と大火の記憶



野尻町の郷土芸能の紹介



大正時代の野尻大火の様子を描いた絵図



野尻村役場から大久保（西小林）尋常小学校への礼状。

## 郷土の民具

宮崎県の内陸部に位置する小林市は、農業を中心とした暮らしを営んできました。水田では米を作り、畑では麦や様々な野菜を作り、綿やカイコから取り出した糸で布を作り現金収入を得るなど、農業といえども、その生業は多種多様なものでした。このコーナーでは、実際に使用されてきたさまざまな農具の紹介を行っています。



昭和初期ころの民家の様子も再現



農作業の道具



林業の道具



製糸業の道具

# 2 階

2階には、発掘調査が行われた遺跡の遺物を中心に展示しています。発掘調査によって出土した出土品には、私たちが現在使っている道具の原形となるものが多数あり、先人たちの工夫によって今の生活があるのだと実感することができます。

## 黎明期の郷土

市内で一番古い道具は、新村遺跡（野尻町紙屋）から出土したナイフ形石器で2万〇千年前頃のものと考えられます。狩猟を中心とした生活を営んでいたと考えられます。縄文時代になると市内でも多くの遺跡が確認され、集石遺構という石を集めた縄文人の炉跡も発見されています。



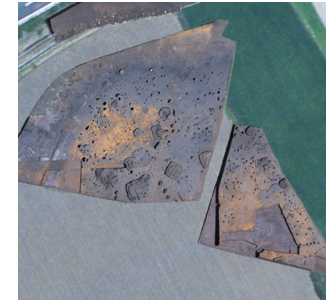
旧石器時代のナイフ形石器（市内で最古の遺物：新村遺跡出土）



縄文時代早期の土器

## 縄文時代の集落遺跡

山中遺跡では縄文時代後期の竪穴住居が30棟以上発見されました。この竪穴住居の周辺に木の実などを貯蔵するための貯蔵穴が多数確認され、九州では水分の多い低湿地に貯蔵穴を設置することが一般的であるのに対して、台地上の集落の中に貯蔵穴を併設する大変珍しい事例です。



縄文時代後期の集落跡



山中遺跡の縄文土器

## 弥生時代後期の首長墓

大萩遺跡では、弥生時代後期の居住域である竪穴住居と墓域が一緒に発見された珍しい遺跡です。墓は、遺跡のある段丘の一番高い場所にあり、19基が密集して確認され、副葬品のない墓が多数を占めるのに対して、4号墓には南九州では珍しいガラス製小玉が多量に副葬されるなど地域の首長の墓と想定されています。



大萩遺跡4号土坑墓出土の供献土器



大萩遺跡5号土坑墓出土の供献土器